

物流倉庫に業界最速の大型洗車機を導入 洗車時間を短縮し業務負担を軽減

熱海運送株式会社様は、10tトラックを洗車できる大型車両用の門型洗車機「カミオン カスタム」を採用。トラックの洗車時間を短縮して、配送後のドライバーの業務負担を軽減させました。

1956年に福島県郡山市で創業した熱海運送株式会社様（本社：同市）は、東北・関東地方を中心に、大手日用品メーカーなどの輸配送を一手に引き受

けています。

同社では、2008年から順次10tトラックをオートマチック車に切り替えるなど、早くからドライバーが働きやすい環境を

整備。その一環で、配送後のドライバーの業務負担を軽くするために、洗車の機械化も進めてきました。2004年には、有線式のリモコンで操作する半自動の洗車機を導入。キズの付きやすいメッキパーツを装着したキャブ（運転台）部分の手洗いや、人手による水滴の拭き取り作業を含めて約1時間で行っていました。

その後、取扱量の拡大に伴い車両

- ポイント
- ▶ 10tトラックの洗車にかかる時間を半分に短縮
 - ▶ 洗車作業を軽減、洗車の順番待ちもなしに
 - ▶ 業務時間短縮、夏場の作業改善にもつながる



本社敷地の一角に設置している大型車両用の門型洗車機「カミオン カスタム」。洗車機本体は10tトラック1台を業界最速、最短3分55秒で洗えるため、キャブの手洗いや水滴の拭き取りを含めて約30分で終わることができる。（QRコードからは大型洗車機の製品情報へアクセスできます）



門型洗車機は左右と上部の3本のブラシで構成しており、リヤ部分もしっかりブラッシングする（左）。操作パネルは、シャンプーやワックス、下部洗浄など洗車コースを押すだけで選択できる（右）。



台数は年々増え、2017年には97台まで増加しました。このため、従来の洗車機の処理能力では対応しきれなくなり、配送を終えた車両が本社に戻ってくる夕方の時間帯には、洗車の待ち時間が発生していました。

そこで半自動の洗車機を撤去し、2018年5月、操作ボタンを押すだけで、自動で洗車を行う大型車両用の門型洗車機「カミオン カスタム」を導入。洗車機を通す時間は、10tトラック1台を

業界最速の最短3分55秒で済むことから、洗車全体にかかる時間は従来の半分、約30分に短縮でき、洗車機の順番待ちをする必要もなくなりました。

代表取締役の佐藤洋様は、「門型洗車機の導入により、ドライバーからは『早く帰宅できるようになった』『2018年の夏は特に暑かったので、屋外での作業が減って助かった』などの声を聞いています」と振り返っています。

も効率的に洗い落とすことができるのです。

「洗車の機械化によって、ドライバーの労働環境を改善することが、安全運転にもつながっています。今後もさまざまな改善を通じて業務時間の短縮を図り、人材確保に努めていきます」と佐藤様は語っています。



高圧で水を噴射する下部洗浄装置がトラックの足回りの汚れを洗い落とす。

下部洗浄装置で防錆対策としての効果も期待

門型洗車機は、防錆対策としての効果も期待されています。冬季は凍結防止のため、道路に融雪剤がまかれますが、融雪剤には塩化カルシウムが含まれているため、車体やホイールなどを錆びさせる原因にもなっています。門型洗車機は、高圧で水を噴射する下部洗浄装置を装備しているため、トラックの足回りに付着した汚れとともに融雪剤

「ドライバーからは、『早く帰宅できるようになった』『2018年の夏は特に暑かったので助かった』など評判も上々です」



代表取締役
佐藤 洋 様